

島根大学教育学部「環境寺子屋」の取組

－ 組織的な環境・科学学習の成果と課題：地域貢献を例として －

○多久雅啓 A, 松本一郎 A, 大谷修司 A, 辻本彰 A

TAKU Masahiro, MATSUMOTO Ichiro, OHTANI Shuji, TSUJIMOYO Akira
MATSUMOTO Ichiro

島根大学 A

【キーワード】環境寺子屋, 科学教育プログラム, 野外学習, 地域貢献

1 目 的

環境寺子屋（環境・理科教育推進室）は島根大学教育学部の平成20年度の文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」の採択により創設し今日まで運営を続けている1000時間体験活動の一部としての科学教育プログラムである。小学校、中学校などでの「理科離れ・科学嫌い」の問題解決が課題とされるなか、教員をめざす大学生のための科学教育プログラムの存在は大きな意義を有するものと位置付けている。ここでは、同プログラムを推進してきた組織、運営体制、及びその教育プログラムの実践・特徴について報告する。

また、特に地域貢献という視点から野外学習についての実践事例を報告する。

2 環境寺子屋の組織と学習プログラム

環境寺子屋は、平成20年度採択の文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」として開設したものである。プロジェクトの正式名称は「豊富な環境リテラシーを有する「理科に強い義務教育教員」育成プロジェクト」である。つまり、環境寺子屋は平成25年度末時点においては6年の教育活動を行ってきた事になる。この間、文部科学省の特別の経費として上述した教育GP経費による活動として、平成20年度、21年度、及び22年度の3ヶ年を実施した。その後の平成23年度は学部独自の経費負担により本プログラムを継続実施した。

平成24年度からは、新たな文部科学省の特別予算である文部科学省特別経費（プロジェクト分）に採択され、新たなプロジェクトの目的を追加し、さらに3ヶ年（平成24年度、25年度、26年度）の予算措置の中、教育活動を継続中である。今回のプロジェクトの正式名称は「地域連携型の自然科学好き教員養成プログラムの開発」である。環境寺子屋の概念図を図1に示した。

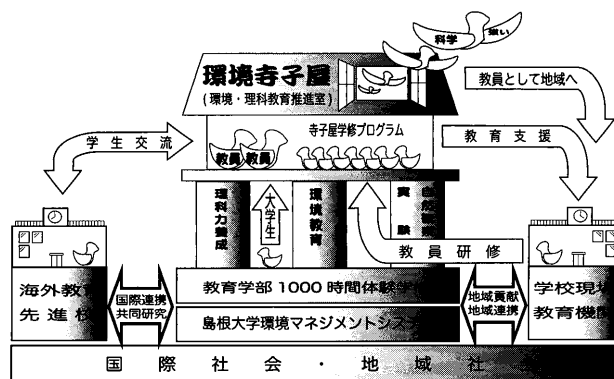


図1 環境寺子屋の組織と取組の概念図

3 成果と課題

本取組の一番の成果は、学生が、寺子屋の教育プログラムの中で、後輩への教育を連鎖的に行っている点、つまり「教わる側」から「教える側」への正に自発的な転換ができてきていることである。もう1点、組織的な観点からは講座横断的な教員の教育連係が良好になった事である。以上、環境寺子屋では1000時間体験活動という学部の強みを最大限に活用し、学生にとって有用で、かつ文部科学省にも評価されるような「科学教育プログラム」を実践してきたと総括する事ができる。